

⑤

携
帶
暖
爐
使
用
法

1676

支那-支那事変上海・南京-354



A2701030003540A

⑥

逸見史料

携帶暖爐ノ使用法

昭和十二年十一月印刷(代謄寫)

防衛研究所戰史室



1677

謹ミテ「携帶暖爐」ヲ在滿清水部隊將兵ニ贈ル

昭和十一年十一月一日

福岡縣大牟田市役所
帝國在郷軍人會大牟田市聯合分會
帝國在郷軍人會三井鑛山聯合分會
三井三池各事業所

1678

甲斐携帶暖爐ノ使用法

目次

其一、要旨

其二、構造及名稱

其三、携帶暖爐ノ設置法

一、天幕内ノ準備

二、携帶暖爐ノ組立法

其四、携帶暖爐ノ撤去法

一、撤去ノ準備

二、携帶暖爐ノ折疊法

三、梱包法

其五、使用上ノ注意

一、天幕ノ設置

二、木炭ヲ燃料トスル場合

三、焚キ付ケ法

其六、保存手入法

1679

甲號携帶暖爐使用法

其一、要 旨

携帶暖爐ハ冬季露營ノ際採暖ノタメ携帶天幕内ニ使用スルモノナリ。

從來ノ木炭火ニ比シ薪、高粱桿、藁等ヲ使用スルタメ燃料ノ蒐集容易ナルト、有毒ナル炭酸瓦斯中毒ヲ防止シ得ルトノ二ツノ大ナル利便アリ。

携帶暖爐ニ甲、乙號ノ二種アリ。甲號ハ車輪又ハ楢ニ積載スルモノニシテ、乙號ハ甲號ヨリ小ニシテ背囊又ハ旅囊ニ縛着携行スルモノナリ。

其二、構造及名稱（附圖第一）

甲號携帶暖爐ハ暖爐本体、堅煙突及屬品ヨリ成ル。

一、暖爐本体ハ厚サ約一耗ノ鐵板製ニシテ上面板、左、右兩側面板、前後面板及橫煙突ニ區分シ概ネ螺番ヲ以テ連結ス。底ナキ四角ナル暖爐ニシテ高さ、巾各四十浬、奥行八十浬アリ、コレヲ折疊ム時ハ高さ十浬巾四十浬長サ八十浬ノ小量トナルモノナリ。

二、堅煙突ハ厚サ約〇、六耗ノ鐵板ニテ製作セラレ三本ノ四角煙突ヲ堅ニ継キ合ハスモノニシテ各々螺番ヲ以テ角ヲ形成シ、折疊ム時ハ扁平トナル。

1680

三、屬品ハ「ロストル」、蒸發皿、火掻及包ノ四種アリ。

1、「ロストル」ハ地上焚口ニ近ク火床ヲナスモノナリ。

2、蒸發皿ハ暖爐上ニ置キ幕舎内ノ空氣乾燥ヲ防止スルモノナリ。

3、火掻及包ハ各其名稱ノ如キ用途ヲナス。

其三、携帯暖爐ノ設置法（附圖第二）

一、天幕内ノ準備携帯

天幕十六枚張ニ一個、二十四枚張、三十枚張ニ、二個使用シ要スレハ圖ノ如ク暖爐ノ周圍六十厘米深サ四十厘米掘開スルヲ可トス。焚口前方ニハ必ズ直經六十厘米深サ十厘米ト焚口下面ニ二十厘米平方ニ深サ十厘米トヲ連絡掘下ケ風ノ吸込ミヲナサシム。

十六枚張ニ於テハ堅煙突ヲ中央トシ焚口ハ入口ニ向ハシムルヲ可トス。

二十四枚張以上ニ於テハ一個ノ場合ハ入口ヨリ奥ニ暖爐ノ位置ヲ決定ス。

二、携帯暖爐ノ組立法

1、包ノ麻縄ヲ解キ各縛革ヲ外シ暖爐本体ヲ出シ前、後面板ヲ二百七十度翻轉シ先ツ上面板ニ其結合釘ヲ差シ込ム。次ニ右側面板ヲ全シ要領ニテ組合ハス。

後面板ニアル横煙突ヲ横方向ニ起シ結合釘ヲ以テ組合ハス。

2、第一堅煙突ヲ四角ニシ底板ヲ起シ横煙突相當ノ孔ニ横煙突ヲ挿入シ、次テ横煙突兩側ニアル連結鈎ヲ堅煙突相當孔ニ掛ク。第二、第三堅煙突ヲ逐次上部ニ繼キ煙突駐具ヲ以テ固定ス。

煙突駐具ハ先ツ下方ニ下ゲオキ上ノ煙突ヲ冠ラセタル後上ニ翻轉シ、ソノ二個ノ突筒ヲ上ノ煙突ノ下部分ノ二個ノ孔ニ押シ込ム。

此際特ニ銅製番號板ヲ第一堅煙突ニ準ヒ右側ニナスコトニ注意スヘシ。

3、天幕ト堅煙突トノ連繋ハ第三堅煙突ニ附シアル接續鎖ニ、携帶天幕ノ紐ヲ以テ適宜縛着ス。

4、堅煙突ニ滑ヒ長サ約二米ノ應用柱以テ支柱トセバ暴吹雪ノ際ニ便ナリ。

第四、携帶暖爐ノ撤去法 (附圖第三)

一、撤去ノ準備

先ツ暖爐内ノ火ヲ天幕外ニ掻キ出シ、然ル後接續鎖ニ結ヒタル携帶天幕ノ紐ヲ解ク。

二、携帶暖爐ノ折疊法

暖爐本体ト堅煙突トヲ連結鈎ヲハツシ離脱ス。

暖爐本体ヲ其儘天幕外ニ出シ分解ス。

堅煙突ハ各煙突駐具ヲハツシ抜キ取り、各押シ潰スカ如ク扁平ニシ折疊ム。

暖爐本体ハ各結合釘ヲハツシ横煙突ヲハツシ。左側面板ノ外面ヲ上面板ノ外面ニ合ハセ、以テ前後面板

ヲ各二百七十度旋回シテ右側面板外面ニ折疊ム。

次ニ上面板内面ト右側面板ノ内面ト相接スル如ク折疊ム。

蒸發皿ハ前面板内部ニ「ロストル」ハ後面板内部ニ入レ、堅煙突ハソノ上ニ重ヌ。火掻ハ暖爐本体長側面ニソヘオク。但シ「ロストル」ノ甚シク變形セルモノハ平ラニ修正シタル後後面板内部ニ入ルヘシ。

三、梱包法

折疊ミタル暖爐ヲ包ノ上ニオキ先ツ包ノ長邊ノ縛革ヲ以テ縛着シ後、短邊ノ縛革二個ヲ縛着其上ヲ麻縄ヲ以テ十字ニ縛リ携行ニ便ニス。

其五、使用上ノ注意

一、天幕ノ設置

1、木炭ヲ用ユル時ハ天幕天井ニ喚氣孔ヲ要スルモ携帯暖爐ヲ使用スル時ハナルヘク綿密ニ結合シ喚氣口ハ之ヲ要セス。

2、積雪多キ場合ハ第一圖ノ如ク周圍ニ雪堆ヲ作り、ソレヲ覆フ如クスルヲ可トシ、少キ場合ニ於テモ天幕下部ニ雪ヲ以テオサヘ吹雪ニアフラレ又ハ風ノ侵入セサル如ク防止ス。

3、藥ヲ使用スル時ハ暖爐ノ周圍ニ藥束ノ儘ヲ列ヘ夜間藥ヲ路ミ出シ暖爐ニヨリ發火スルコト様ナス

ヲ可トス。

4、掘り出シタル土ハ暖爐下部ノ外側ニオク時ハ暖爐ノ移動ヲ防クニ便ナリ。

二、木炭ヲ燃料トスル場合

木炭ヲ使用スル時ハ「ロストル」ヲ除キ直接地上ニオクヲ可トス。溫度ハ直接炭火ニヨル場合ヨリ攝氏五度低下スルモ炭酸瓦斯中毒者ヲ生スル患ナシ。

三、焚キ附ケ法

1、最初(天幕内、外ノ溫度同一ナル場合)煙ルヲ以テ入舍前早ク焚キ付ケオクコト。

2、薪ハ最初細ク割り急ニ燃スコト。

3、燃エツキタル後ハ不燃番ヲシテ一本宛追加セシムルコト、同時ニ多ク入ル、時ハ煙ル。

4、常ニ暖爐上ノ蒸發器ニハ雪又ハ水ヲ入レ幕倉内ノ乾燥ヲ防クヘシ。

5、甚シク煙ル時ハ附近ノ土ヲ以テ煤番其他ノ隙ヲ目塗りスルモ一方法ナリ。

6、煙リタル後睡眠セントスル時目ノ痛ムコトアリ雪又ハ水ヲ以テ目ヲ洗フヲ可トス。

7、飯盒炊事ハ暖爐上ニ、二十四個、焚口ニ掻キ出シタル置火、約六個計參拾個ノ炊事ヲナシ得。

8、冬季ノ生木モ火力強クナリタル場合ハ良ク燃ユ。

其六、保存ノ手入法

總テ鐵製ナルヲ以テ錆ビヲ生セシメサルコト肝要ナリ。使用中加熱ノタメ減耗スルヨリモ保存手入ノ錆ビニ因ル損廢ノ大ナルコトニ注意スヘシ。

使用後又ハ行軍滞在日ニハ必ス手入ヲ行フヲ要ス。

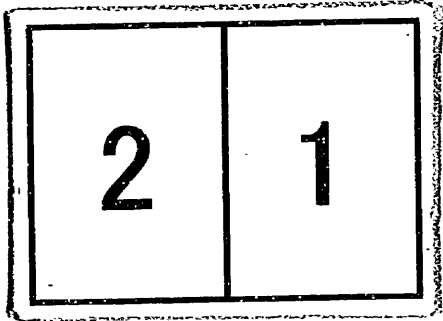
其要領左ノ如シ。

- 一、變形部位ノ修正特ニ上面板ヲ平ニシ側面板下部ヲ眞直ニナスコト。
- 二、煤ヲ除去スルコト。
- 三、乾キタル薬又ハ布ヲ以テ錆ビヲ拭キ取り輕クスピンドル油又ハ魚油ヲ塗布ス。
- 四、附屬品ノ員數ヲ檢査スルコト。
- 五、夏季長キ間ノ格納ニハ鉛墨ヲ塗布シオクヲ可トス。

(日生)

1685

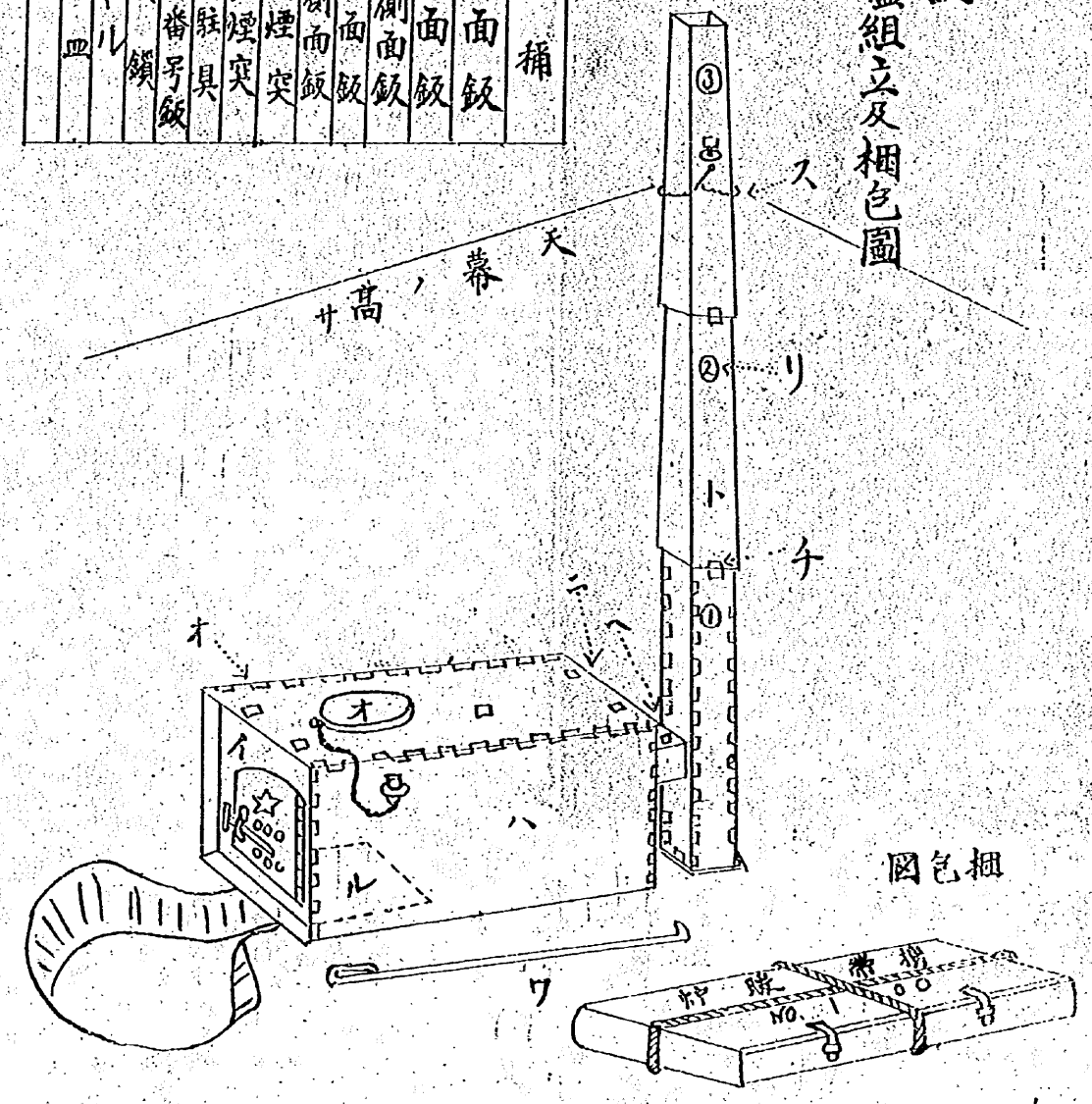
分割撮影ターゲット

分割した 部 分 の 撮 影 順 序	
分割撮影 した理由	A 3 版以上のため
文書等名	携 帯 暖 爐 組 立 図 梱 包 図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

附圖第一

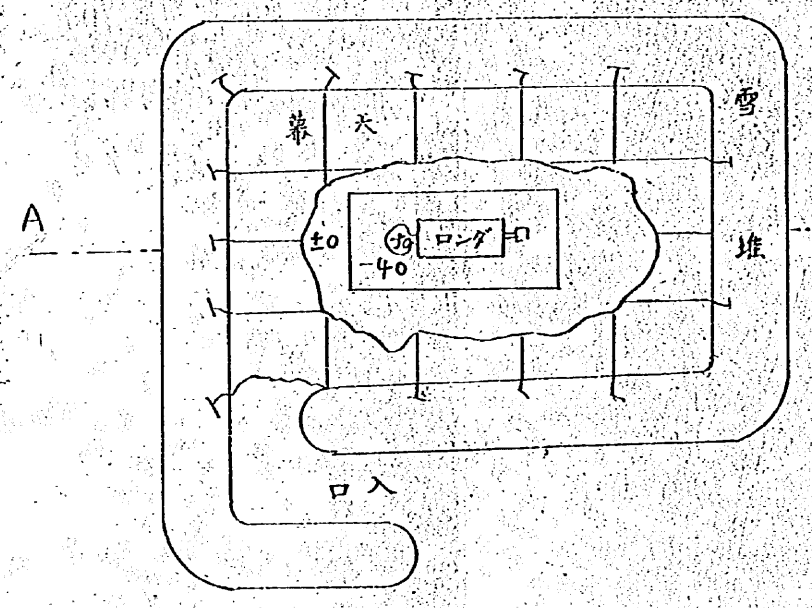
携帶暖爐組立及梱包圖

番号	名	補
イ	暖	前面板
ロ	炉	上面板
ハ	木	右側面板
ニ	体	後面板
ホ	左側面板	
ヘ	煙突	
ト	第二煙突	
チ	煙空具	
リ	銅製番号板	
ヌ	接続鎖	
ル	口ストル	
ヲ	蒸発皿	
ワ	火機	

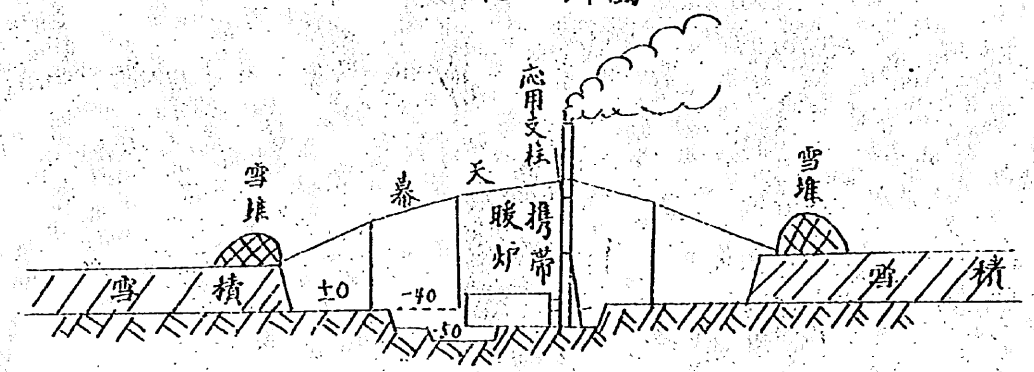


附圖第二

三十枚張幕舎一例ヲ示ス

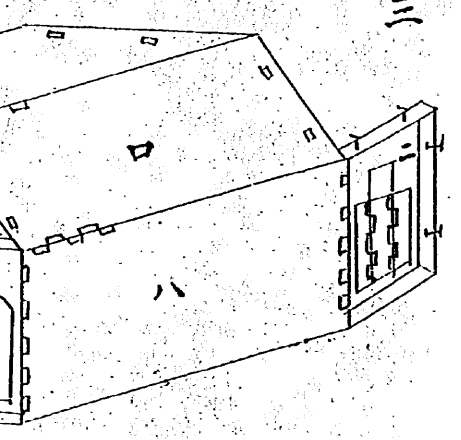


AB, 断面

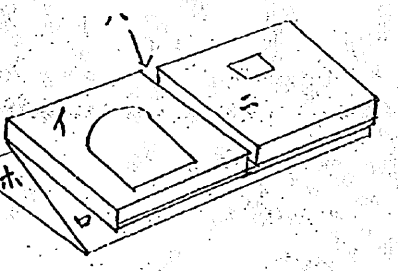


附圖第三

組立始メ



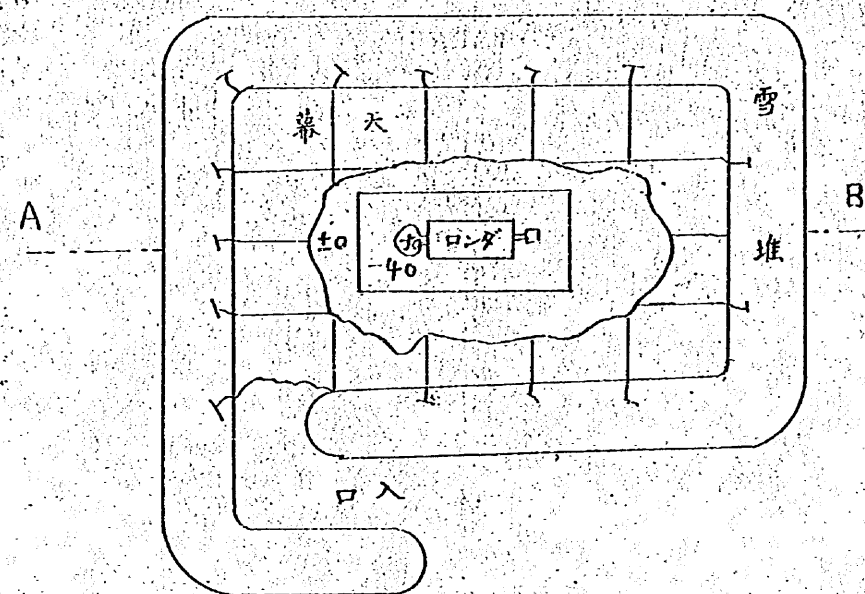
折疊法



ワ	オ	ル	ヌ	リ	ナ	ト	ハ	ホ	ニ
火	蒸	ロ	接	銅	煙	第	へ	ホ	本
櫓	発	ス	続	製	空	二	体	後	木
	四	トル	鎖	番	煙	堅	左	面	イ
				号	突	煙	側	面	ノ
				飯	突	突	飯	飯	ノ

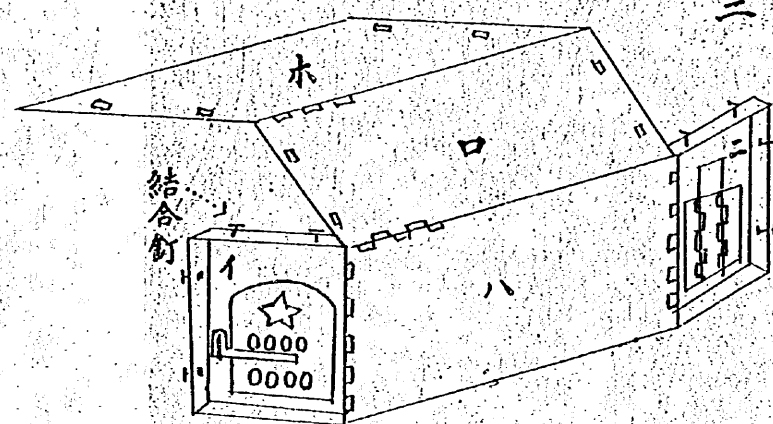
附圖第二

二十枚張幕舎一例ヲ示ス

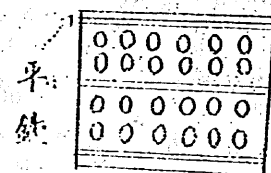


附圖第三

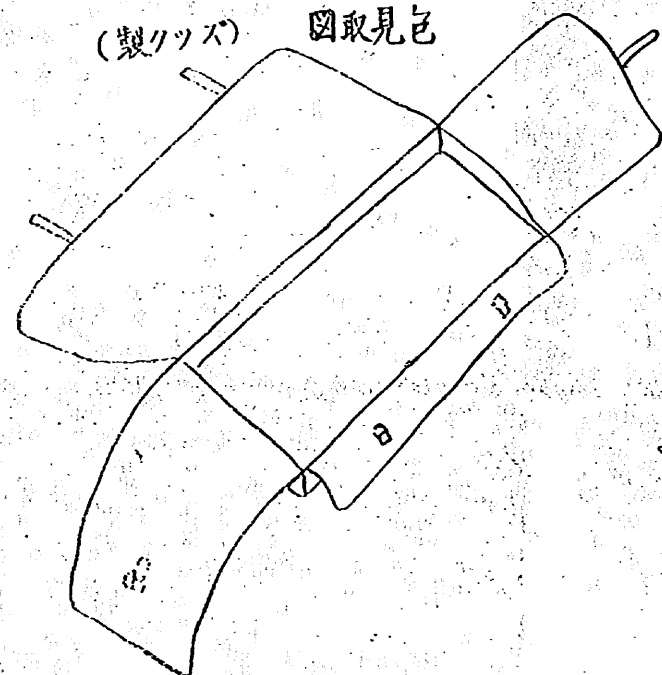
組立始メ



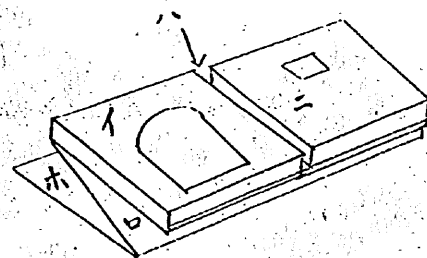
図ルトスロ



(製クツズ) 図取見色



法ミ疊折



AB / 断面

